



2021・7・11

第 415 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 総選挙へ！改憲反対の声草の根から

### 絶え間ない活動で世論を変える

【和歌山県／和歌山障害者・患者九条の会】

6月27日、和歌山市ふれ愛センターで23名が参加して、15周年の総会と記念講演会を行いました。

「和歌山障害者・患者九条の会」は、2006年6月24日に結成総会を開催。「障害者は平和でなければ生きられない」をスローガンに、地道な活動を続けてきました。総会ではコロナ禍の1年にもかわらず、天野の里交流バスハイキングやジェンダー学習会の取組みをしたことを振り返りました。そして7年8ヶ月余に及んだ安倍政権をもってしても改憲を実現できなかったのは、世論の力によるものであり、私たちの活動に誇りをもたなければなりません。

新型コロナ緊急事態の影響で、当初予定していた京都の岸博実先生は次回に行うこととなり、「憲法九条を守る和歌山県民の会」の坂本文博先生に急遽講演していただきました。先の国会で成立した国民投票法改定案のねらいと背景について、分かりやすくお話していただくことができました。

### 対米公約実行めざし、さらに軍拡

防衛省はこれまで軍事費GNP比1%以内を「目安」とし21年度は0.95%でしたが、岸信夫防衛相は、「厳しい安全保障環境に対応する」として、来年度はこれにとらわれず大幅増額する考えを強調しています。中曽根内閣は1%枠を撤廃しましたが、国民の強い反対で突破したのは2010年度のみ。以後は1%を「目安」としてきました。

ところが先の日米首脳会談で台湾海峡有事や尖閣列島問題から「敵基地攻撃論」等で日米軍事同盟の役割分担拡大を迫られ、今回の岸防衛相発言となったものです。20年度の防衛費伸び率でみると米国5.4%、中国6.6%を宣伝し、それと対比しても日本が少ないというのが言い分。

しかし、日本は憲法9条をもつ国。なのに21年度予算は5兆3422億円でしたが13年以降9年連続増加、15年以降は過去最多を更新し続けています。(7月6日「日経」)

なぜ改憲の準備を急ぐのか。4月16日の日米首脳会談の共同声明において、台湾海

峽をめぐるアメリカと中国が交戦状態に入った場合、自衛隊が武力行使に加担することを約束しました。また2020年3月、アメリカの新しい軍事方針に基づいて、奄美、宮古、石垣に陸自ミサイル部隊の設置を進めるそうです。このように、安保法制を根拠にアメリカに付き従って戦争できる国にすることが真の狙いであり、9条の条文だけを守るのではなく、その背景にしっかり目を向けなければならないと話されました。

マスコミで報道されないような最新の情勢を学ぶことができました。運動によって世論を喚起するとマスコミも無視できなくなるとのこと。これからも絶え間なく活動を続けていきたいと思えます。（「九条の会・わかやま」429 会の事務局・野尻誠）

## 若者とのつながりめざす工夫を

### 【埼玉県／マスコミ・文化九条の会所沢】

コロナ禍のなか、2年ぶりの「講演会・総会」が6月19日、新所沢公民館で37名が参加して開催されました。

持丸邦子代表委員が冒頭あいさつ。つづいて、ジャーナリストの布施祐仁さんが講演。「米中対立」激化のなかで日米共同声明に「台湾」が明記され、日本が同盟国としての役割を担わされようとしている実態を解き明かしました。

後半の総会では、佐藤俊廣事務局長が「これからの活動について」報告・提案を行いました。

この間の取り組みでは 学術会議任命拒否問題でいち早く抗議の声明を出し、国民投票法（改憲手続き法）改定案採決前に各党にFAXで要請したこと、「会報」を毎月発

行するなど、困難ななかでも運動を続けてきたと報告。

情勢では、憲法審査会で自民党の改憲4項目が提案・審議される危険性があることへ注意を喚起。アメリカの軍事戦略のもと、宮古・石垣島に自衛隊のミサイル基地が建設されるなど、憲法9条を蹂躪し、日本を「戦争ができる国」にする動きが強まっていると指摘。立憲主義・民主主義を回復させるため、総選挙では「市民と野党の共闘」が欠かせないと指摘しました。

今後の活動では、所沢で「草の根」改憲を許さないたたかいをすすめること、強行採決された「土地利用規制法」は市民生活に重大な影響を及ぼし、基地の全面返還が急務になっていることを強調。この1年間に会報のつながりから34名が入会したことが報告され、会報の読者をひろげ会員をふやすことを呼びかけました。

会場からは、若者に受け取ってもらえるビラをつくってほしい、吾妻九条の会や狭山九条の会の取り組みなどが紹介され、「若者」とのつながりを持つためSNSの活用、オンライン学習会開催の経験などの発言がありました。

最後に会計報告が行われ、いずれも拍手で確認されました。（「マスコミ・文化九条の会所沢」会報第176号）

## 捉え直した「ジェンダー問題」

### 【川崎市宮前区／宮前九条の会】

6月27日、宮前九条の会の第75回学習会を宮前市民館で開きました。「いま、なぜ、ジェンダー平等が、日本の民主主義の重要なテーマなのか」と題して昭和女子大学

名誉教授の伊藤セツさんが講演しました。

— — — — —

小生は1940年生まれ。戦後民主主義のまただ中で育ち、60年安保を経験、職業は出版を選択した。まあ文化状況には一応の知識がある部類だと勝手に自負している。それが最近流行の「ジェンダー」というものについては「性差別反対」「男女同権」程度のイメージで、正直よくわからなかった。

講師伊藤セツさんのお話は、大変にわかりやすく、親しみやすく、ご自分の経験をふんだんに交えて説得力があり、実に楽しい学習会であった。懇切なレジメが配布されたので、日本の政府・行政の立ち遅れぶり、夫婦別姓について自民党まともならず、公的調査での性区分表記について先進国の配慮例、ジェンダー・イコールとジェンダー・フリーは逆の立ち位置なことなど、へえ～そうなんだと感ずることしきりだった。とりわけ印象深かったことは、質疑での、いわば自己の内なる差別についてだった。マイノリティへの対応では、伊藤さんのゼミに聾者が入ってきて大変だと思ったときに学生が手話サークルを結成してすぐに動いたこと、オバさんという表現・パートナーをどう呼ぶかの問題では、日本語がそもそも差別的で適当な語がないことが指摘され、しかし大変ではあるが、当事者と向き合う実践が状況を変えるのだと結ばれた。

会場参加33名。75回の中でも出色の会だったという若原事務局長の評価に小生も同意する。伊藤さん、ありがとう。（「宮前九条の会ニュース」第180号 新城紀雄）

## 改憲許さない地域の運動の勢い

### 【東京都小平市／九条の会・小平】

6月20日、九条の会・小平16周年記念講演会を小森陽一さんを迎えて行いました。15周年の集いができなかつたので心配していましたが、140人(コロナ禍のため会場定員の半分150人を限界としていました)の集いとなり、地域の改憲を許さない運動の勢いを示すことができました。

小森さんの「九条これから」の70分にわたる講演と30分の会場との質疑応答の後、地域から5人が発言しました。

鷹の台9条の会からは発足して5年、事務局での議論を踏まえて毎月2回の駅頭宣伝、新聞を月1回発行していること、戦争体験を語る会を3回開き、満州や樺太での体験、国民学校の体験など出し合ったことが語られました。花小金井9条の会からは毎月2回駅頭宣伝を行っていること、大きな横断幕を会員が作ったのでよく目立っていること、参加者が少ないので参加を呼びかけます、ということでした。さようなら原発オール小平をめざす会からはこの11年間、毎月ビデオを見る会で原発問題を追及してきたこと、その参加者からのカンパで200枚のはがき案内を出し続け、原発事故10周年の今年から参加者からの声で毎月11日に駅に立って訴えていることが語られ、教組の参加者からはコロナ禍のなかでオリ・パラ観戦に子どもたちを引率していくように迫られており、中止するように要求している、ともに中止を求めてくださいと訴えがありました。小平市民連合からは宇都宮さんの都知事選の時は地域で市民と野党の共闘(緑の党・無所属革新市議会議員を含めて)が進んだ

が、いまはもうひとつはっきりしない状況、そんな中で市民連合として駅頭での宣伝を進めだした、との話でした。小森さんの講演とともに 9 条を軸に地域の運動が出し合われ、これからの運動に弾みをつける集まりになりました。

(九条の会・小平事務局・木村)

## 五輪より命を大切に訴え

【愛媛県新居浜市／中萩・大生院校区憲法九条を守る会】 6 月 27 日に宣伝行動に取り組み、「野党共闘で政権交代」と訴える横断幕などを掲げ、「五輪より命を大切に政治を」と訴えました。

5 人がリレートーク。井谷彰利事務局長は、菅政権はコロナ禍に便乗して改憲を推し進めようとしていると指摘。「市民と野党の共闘は、6 年間で深く広がった。桜を見る会疑惑では、野党が連携して追及し、コロナ対策では共同して支策を提案し、実現した。その共闘を 1 歩進めて、政権をめさず運動にすることが大事だ」と訴えました。

## 総選挙では何が問われるか

【神戸市東灘区／九条の会ひがしなだ】

6 月 26 日（土）神戸市東灘区文化センターにおいて、15 周年記念講演会として、神戸女学院大学教授の石川康宏さんを講師に、「総選挙で問われるものは何か～改憲策動を阻止し、命と暮らしを守る為に～」と題して講演会を開催しました。当日は「まん延防止等重点措置」下でしたが、ソーシャルディスタンス、換気等感染防止対策をとったうえで無事終えることができました。

講演で石川教授は、パワーポイントで豊

富なデータと写真等を使い、①今、日本政府がやっていること②コロナがあぶり出した社会の課題③転換が求められる新自由主義④「命と暮らしを守る社会」の到達点⑤まともな政府をつくり日本を救おう、という流れで、具体的かつ実証的に話され 40 名の参加者に大きな感銘を与えました。

参加者からは、「世界水準からずれてしまった日本の現状を自分の事として直視したい、国民一人一人が自ら考え、発信、行動する重要性を再認識した。今の日本は国民がそうできない、余裕のない生活をさせられている、今の若い人が自分で考える喜び、責任を感じる教育を一步一步目標を定めて実現することが重要と思います」「デンマークの進んだ点と、日本の遅れた点を比較して、分かり易い説明でした。日本の政治の遅れは、為政者側にも、国民の側にもあることを痛感しました。国民はもっと賢くならなければ！！」「『すごい憲法ができてしまったのに、国民が学ぶ機会がなかった』事を今からでも自覚したいと思った」などの感想が寄せられました。

## Facebook でつながりを密に

【岡山県津山市／津山九条の会】九条の会 Facebook グループは現在 15 名の会員がメンバーとなって利用しています。この輪を広げ、会員相互のつながりを維持・強化していきましょう。Facebook に会員登録をして「津山九条の会グループに参加」をクリックしてメンバーリクエストを返信してください。管理者が承認するとメンバーとなり、文・写真・動画などの投稿やライブ動画などで学習・交流を深められます。